平和祈念展
「サダコと折り鶴」　ポスター展

場所：３階　３１６

佐々木禎子（サダコ）さんは、広島平和記念公園にある『原爆の子の像』のモデルとなった被爆者のひとりです。２歳のときに、被爆地から1.7ｋｍ離れた楠木町で被爆しましたが、外傷もなく元気に成長し、小学校では運動会のリレー選手として活躍するなど活発な少女でした。しかし、小学校６年生の秋に突然、病のきざしが現れ、白血病と診断され、昭和30年２月広島赤十字病院に入院しました。「鶴を1000羽折れば、願いが届く」と祈りながら薬包紙や見舞い品の包装紙で、鶴を折り始めましたが、願い叶わず８か月の闘病生活の後、原爆症で12歳の短い人生を閉じました。

この知らせを聞いた、禎子さんの級友たちが中心となり、禎子さんをはじめ原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊し、平和を守るための祈念の像をつくろうと呼びかけ、昭和33年のこどもの日(５月５日)に『原爆の子の像』が完成しました。この像や禎子さんのこと，そして折り鶴のことは、日本だけでなく、色々な国に広まっていきました。アメリカでも子どもたちが「ぼくたちも平和のために、像を作ろう!!」と募金を集め、シアトルなどに平和の像ができました。

毎年、「原爆の子の像」には、世界中から平和への願いを込めて，たくさんの折り鶴が寄せられます。

今回、広島平和祈念資料館よりポスターをお借りし、展示しておりますので、お立ち寄りください。

一緒に！！平和のコマ（折り紙コマ）を作ろう！！

「原爆の子の像」